

浜松観光ボランティアガイドの会

研修部主催研修会「神話の地 袖紫ヶ森周辺を歩こう」

今年の 8 月号 (229 号) で研修部研修会序章として紹介して以来、皆様方から大きな反響を寄せていただき、今日のこの日を待ちかねた会員も多かったようです。秋晴れに恵まれた 11 月 16 日(火)、9 時半開始前の早々から蒲神明宮二の鳥居前に東ブロック 13 名、西ブロック 9 名、南ブロック 14 名、北ブロック 16 名、中ブロック 9 名の総勢 61 名が集合しました。初めに蒲神明宮の宮司富田様よりご挨拶を頂きました。今回の研修会にあたり特別なご配慮により 2020 年式年遷宮後の神殿、御門、外宮の鳥居を見学させていただくことになり会員全員で感謝を申し上げました。早速、大鳥居左手横にある蒲神明宮が発祥地だと言われている「蒲桜」を見ながら、松や楠の大木が秋の日差しを遮る中を富田様の後をゆっくり本殿に向かって歩いて行くと、そこには遥か 1200 年前のいにしへの荘厳な空間が広がっている感じがしました。拝殿前で最初に富田様より参加者全員のお祓いをしていただき、伊勢神宮より譲り受けた外宮の鳥居をくぐり抜けて内宮そして真



蒲神明宮一の鳥居

新しい外宮をお参りました。今回は特別に見学説明をしていただいた富田様のご厚意にあらためて感謝の意を表して蒲神明宮を後にしました。次に右手に西遠女子学園、左手に后土(ごうど)神社を見ながら「ごしん表参道」を一の鳥居に向かって行きました。屋台を通すために鳥居のかさ上げをしたというエピソードを聞きながら六間道路を横切って左手の芳川に向かって琵琶橋を渡りました。旧東海道松並木を思い浮かべながら南に入り、子安神社を左手に見て蒲協働センターで休憩しました。そして蒲神明宮の摂社として祀られている八柱神社では蒲神明宮の遷移後の内宮古神殿を移築されているとの説明を聞いて皆さん納得。雨乞い弁天池の横に大日如来像が安置されている光禅寺を通して、旧東海道にある紫蘇巻きの元祖で有名な六軒京本舗とその石庭を見学しました。右手に浜松アリーナを見ながら北上して日吉神社へ。そこからサーラガビルを眺めながら柳通りを西へひたすら歩き、道路北側一帯は太平洋戦争中に軍需工場として中島飛行機製作所が建設された場所で、その盛り土のために芳川を深く掘り下げたという説明を聞きました。そして東郵便局を通過して巖邑堂前に 12 時ごろ到着してから各グループ毎に解散しました。

移動距離が少し長くて疲れたとか、昔この近郊に住んでいて懐かしく思いながら歩いていたらあっという間に到着したなどいろいろな感想が聞かれました。袖紫ヶ森公園の蒲神明宮を中心としたこの蒲地区の歴史に少し触れることができ、浜松で一番古いとされる蒲神明宮の宮司富田様が「神社の仕事の第一はこの森を守ることです」と最初にお話していたのがとても印象的でした。この先千年、二千年とこの神秘的で緑豊かな森が残っていることを願わずにはいられません。



蒲神明宮表参道前で説明を聞く



2020 年に遷された外宮

中ブロック研修

新人研修を兼ねた浜松市博物館見学

10月28日(木)9時30分より浜松市博物館2階会議室にて、中ブロックミニ研修会が空調管理のもと13名が参加して実施されました。最初に22期、23期の入会者による自己紹介(趣味抱負等)をして、会員のコミュニケーションを



研修会風景

はかりました。コロナ禍で研修会やボランティア活動の休止が相次いだ為、収束後の明るい展開が望まれました。引き続き博物館学芸員久野正博さんにより「博物館の楽しみ方」を主題に座学が行われました。1958年に浜松城天守内に郷土博物館として開館、1979年に浜松市博物館として現在地に移動開館しました。

原始から近代までの浜松市内の文化財の紹介、民俗、文献資料が展示されています。展示室には巨大ナウマン象の骨格標本が来場者を出迎え、隣接する国指定史跡蛸塚遺跡の貝塚の一部、埋葬された人骨、矢じりが刺さった鹿の骨等々の展示があります。2011年のリニューアル工事では展示品をより印象的にする為に壁は暗い色調に、床には足跡マークで動線が表示され見学順路をわかりやすくしました。

1時間の座学の後は、1階のテーマ展会場へ移動して開催中の「新収蔵品展」を見学しました。浜松地域のもの作りの道具、生活用品、歴史的資料を目の当たりにすることができます。なかでも水野重央(みずのしげなか/徳川家康の従弟)の画像は近世初めの浜松城主の資料として、又、水野重央に関わる資料として貴重なもので、特筆すべき収蔵品と思われました。展示品の全てが博物館収蔵品としての深い役わりを持つ事が、久野さんの解説で大変わかりやすく理解できました。事前に質問を用意していたらもっと多くのギャラリートークがうかがえたのではなかったか、との思いと、浜松への郷土愛を新たに育んで予定通り12時に研修会が終了して現地解散になりました。



参加者全員で記念撮影

今回のテーマ展関連企画として、来年1月に第1回はまはく講座「新発見の遠州浜松城図を読む」の予定があり今から受講するのが楽しみです。

広報部 藤田礼子 (中ブロック)

23期生フォローアップ研修「まちなかガイド」

小春日和の11月11日(木)に23期の10名のうち8名の参加で新人フォローアップ研修が実施されました。浜松城公園駐車場のせせらぎの池辺りに集合し、鈴木・大見両副会長の先導のもとに9時ごろ出発しました。

最初に向かったのは前日に開催された「出前講座二の丸御殿発掘調査の説明」で、鎧掛松の石垣が市庁舎建設の際に発掘されたものと聞いたのでその現場へ。次には大手門跡地そして秀吉時代の



説明に熱心に耳を傾ける

ここには渡辺毛庵の墓があり、墓前で鈴木副会長の説明を皆さんは熱心に聞き取りメモをしておりました。毛庵とは江戸中期の医師で城主松平資訓に仕え典医になった人物

で、儒学も学び賀茂真淵は門人です。

旧東海道に戻り成子町の東漸寺です。境内には飯尾豊前守連龍(つらたつ)の五輪の塔とその横には鬼子母神のお堂がありました。皆さんは熱心に質問したり写真を撮っていました。

それから法林寺と進み、鳴子地藏を祀る西導寺廃寺に立ち寄り、西番所跡、中番所跡の説明を受け、梅谷本陣跡でゴールとなりました。ここで大村会長と合流し、ザザシティ5Fの会議室で三役と事務局長と23期生との意見交換



飯尾豊前守連龍の五輪の塔の前での時間を設けてありました。今日の現地研修やこれまでのガイド活動で感じたことについて忌憚ない意見を出してもらい和やかな雰囲気です。話弾みとても良い新人研修でした。

広報部 柳本幸子 (中ブロック)

会員の交流広場

星形の城郭 龍岡城「五稜郭」

皆さんは日本に星形の城郭を持った城がいくつあると思いますか？実は2つです。1つは皆さんご存知の函館「五稜郭」もう1つは長野県佐久市にある龍岡城「五稜郭」です。9月30日で緊急事態宣言も解除され、中部横断道路で静岡県と山梨県も1本につながり便利になりましたので、10月に長距離ドライブに行きました。途中のハケ岳はすでに中腹では紅葉が始まっていました。龍岡城「五稜郭」を紹介します。

星形稜堡（りょうほ・外に突き出している）の西洋城郭で貴重な史跡です。江戸時代の末期、元治元年（1864年）から3年をかけて建設されたこの城の城主は、大給（おぎゅう）松平家実次系最後の藩主松平乗謨（のりかた）で若いときから洋学を学び洋式城郭にあこがれ築城されたものといわれています。石垣は「切り込みはぎ」、隙間をなくし砲座下は六角形の「亀甲積み」、大手橋付近は「布積み」と色々な技法が取り組みされています。又、当時の藩主松平乗謨の禄高が1万6千石と禄高が少なく、大給松平家は先祖代々「陣屋格」で、城を持つ資格がなかったため、天守閣その他様々な防備設備を作ることができなかったようです。慶応3年（1867年）4月建物が完成したが明治4年（1871年）に廃藩置県で取り壊しとなり現在は、大手橋、左右の石垣と堀が周りを囲っていて当時の面影が残っています。又、城内には小学校が造られています。

松平乗謨（大給恒/おぎゅうゆずる）は、大給松平家真次（さねつぐ）系第11代当主で日本赤十字社の前身である「博愛社」を創設した一人でもあります。《先祖をたどると大給松平家宗家第5代藩主松平真乗（さねのり）の子松平真次は、大給松平家宗家より分家し真次系初代》



全景（佐久市観光協会 HP より転載）

大給といえばそうです、第7代浜松城主松平乗寿（のりなが）も大給松平家宗家の出身です。乗寿の祖父は大給松平家宗家5代当主松平真乗（徳川家康の又従兄）、父は6代当主松平家乗（いえのり）、松平真次は叔父にあたり父・家乗と真次は兄弟です。又、乗寿の子・松平乗政は、大給松平家乗政（のりまさ）系の初代といわれています。

龍岡城五稜郭は、のどかな畑道を行くと五稜郭の資料館に出ます。駐車場も完備されて大型バスの駐車もできますが途中狭い場所がありますので通行には注意が必要です。そのほかは何もなくゆっくりと時間が過ごせますよ。



大手橋左側より堀を望む

松平家は徳川宗家・大給松平家宗家・大給松平家真次系・大給松平家乗政系・大給松平家親清（ちかきよ）系等の家系があります。

中ブロック 小野貞男

びっくりガイド日誌 9 視覚障害者をガイドして

11月2日に視覚障害者の夫婦のガイド依頼を受けました。どのようにやれば良いか不安はありましたが「案ずるより産むが易し」の心持ちで天守曲輪にて待っていると、40代くらいの視力障害者夫婦が介護の心得のあるタクシー運転手さんに導かれ歩いて来ました。運転手さんは「介護中」を胸につけており、さすが誘導が上手です。盲導犬も一緒です。実は小2の時に隣家の犬に噛まれた私は犬が苦手ですが、盲導犬の存在を忘れるくらい大人しくご主人の目となり吠えません。

お二人は広島県の方で、歴史がとても好きでよく二人で出かけているそうです。天守閣は秀吉の家来・堀尾吉晴が手掛けた話とその後松江城を

造った話をしたらご存知でした。井戸も天守閣内にあると言ったらとても興味を示され、また石垣にも触ってみたいと希望されたので、予定にない天守閣への入城をしました。手摺りを握ってもらいゆっくりと階段を上り、一階では三方ヶ原合戦の三バージョンを聴き地下の井戸にも行きました。帰りの階段の途中で石垣に触りこれにはとても感動してくれました。そして最後は鎧掛松へ希望がありお連れして鉄門跡あたりでお別れしました。途中失明なので説明の内容が判るとのことでしたが、スムーズに運び胸をなでおろした次第です。

中ブロック 柳本幸子

浜松城主の家紋 パート 3

丸に木瓜紋 高力忠房（6代）



高力摂津守忠房は「丸に木瓜紋(もっこうもん)」です。木瓜紋は「ぼけ」又は「きゅうり」の切り口を形取ったものだとも云われるが、元来は中国から伝わった窠(か)紋で、日本では最も古い紋の一つでいろいろな種類があります。古くは御簾(みす)の周囲にめぐらせた布帛「帽額」(もこう)に付けられた文様が独立したものです。織田信長の織田木瓜紋が有名ですが吉田松陰、二宮尊徳も木瓜紋です。

高力家は三河譜代の家臣で、忠房の父清長は三河三奉行の一人で「仏高力 鬼作 左・・・」と言われたほどの温厚で慈愛に富んだ人物、そして忠房は浜松を城下と宿場の機能をもった街に整備した政治力のある城主でした。五社神社で今も使われている大きな手水鉢は忠房の寄贈されたものです。在城20年の後、転封され乱後の肥前島原を治めました。

蔦紋 松平乗寿（7代）



蔦(つた)は葡萄に似て「海獣葡萄鏡(かいじゅうぶどうきょう)」にみられます。蔓(つる)をもって繁栄を図り、一族諸家が栄えるという意味をもちます。松平氏の代表的家紋で、松平氏はもと葵紋を使っていたが、徳川氏をはばかって、本家の繁栄に絡まって栄える意味も込め、蔦紋に変えたといわれます。蔦紋は「萬葉集」や「枕草子」などにその風趣の美しさが愛でられる植物で良い家紋です。城主であった松平和泉守乗寿(のりなが)は寛永15年美濃岩村より浜松に移り、浜松城主在城中に寛永19年(1642年)幕府最高職の老中となり2年後上州館林に移封されました。その後も8年間老中を勤めております。

なお蔦紋は武家に好まれ、使用する家が多く十大家紋の一つに数えられております。

研修部 飯田明良(北ブロック)

～訂正とおわび～

はままつ案内人会報11月号(232号)に誤りがありましたので訂正しておわびいたします。

3ページ御城印説明

誤：卦川(掛川城) ⇒ 正：掛川(掛川城)

4ページ《犀ヶ崖資料館》1日 誤：浜松市立西部台中学校 ⇒ 正：浜松市立西都台中学校

11月のガイド活動 《明るく楽しくやらまいか》

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。またこの3カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター(浜松駅構内)」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

これまでは来場した団体すべてを記載していましたが、本号より当会がガイド活動を行った団体のみを記載するように変更しました。

《浜松城》

5	金	神戸歴史と山を歩く会	8名	14	日	静岡産業大学	40名
10	水	富士急トラベル	27名	21	日	はぐるま会	14名
12	金	北部あおい学級	13名	《浜松まつり会館》			
17	水	浜松市立引佐北部小学校	13名				
18	木	浜松市立熊小学校	7名	2	火	浜松市立船越小学校	60名
20	土	法枝町ふれあいサロン	20名	4	木	浜松市立開成中学校	180名
《犀ヶ崖資料館》				9	火	浜松市立入野小学校	96名
				11	木	沼津市立今沢小学校	64名
11	木	浜松市立富塚中学校	9名	12	金	浜松市立白鷺小学校	199名
12	金	袋井特別支援学校	9名	24	水	浜松市立中部小学校	99名

はままつ案内人会報 233号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会

〒430-0946 浜松市中区元城町100-2 (浜松城内)

TEL&FAX 053-456-1303

メールアドレス mail@hama-svg.jp

ホームページ http://www.hama-svg.jp/

はままつ案内人

検索

